

平成25年11月の「きになる通信」

中古住宅 専門家が診断 — 買い手の不安を払拭



中古住宅の買主の不安をなくすため、プロの目で建物の構造や設備にどんな欠陥があるのか調べる「住宅インスペクション（診断）」が広がってきました。

物件情報がマイナス面も含めてしっかり開示されれば、買主はリフォーム費用を見積もりやすくなります。

売主も早期の売却やトラブルの回避といった目的で診断に協力しているようです。

診断結果に基づいて建物や設備の保証サービスを提供する仲介業者も出てきました。

※中古住宅の売買後に新たに欠陥が見つかったときの責任と対応は？

民法：売主の責任。買主は発見から1年以内に損害賠償などを請求できる。最高裁の判例では、売主の責任は引渡から10年間。

(2013年10月16日 日本経済新聞記事から抜粋)

近代建築、生きた美術館に — 大阪市、第1弾28件選出

船場の町家・千日前の喫茶・・・



大阪市は近代以降に建てられ、今も生き生きと都市の魅力を伝える建築物を「生きた建築ミュージアム」として発信する事業を始めました。

第1弾として、船場の町家や千日前の喫茶店など28件を発表しました。

(2013年10月24日 日本経済新聞記事から抜粋)

主要駅周辺で人口増 — マンション供給増加



近畿では主要ターミナル駅周辺など、都市部での人口増加が顕著になっています。

大阪市北区の10月1日の人口が約11万7500人で前年同月比2.5%増、中央区は約8万6000人で同3.6%増でした。市全体（同0.2%増）を上回っていて、都市部への回帰が鮮明になっています。背景にあるのは供給されるマンションの増加です。

（2013年10月30日 日本経済新聞記事から抜粋）

